

松下幸之助記念財団 研究助成

研究報告

【氏名】

徐 偉信

【所属】（助成決定時）

東京大学大学院総合文化研究科

【研究題目】

中国共産党の政治宣伝と中国社会の変容（1945年－1957年）

【研究の目的】（400字程度）

本研究は歴史的なアプローチを提示し、中国共産党の政治宣伝の本質と中国共産党の支配の正当性を明らかにするにより、中国共産党に対する理解を深める。戦後の中国共産党がわずか数年間に国民党政権を潰して、さらにその後社会主義体制を築く歴史の過程において、中国共産党の政治宣伝は重要な政治手段として、国民の支持を獲得する際に重要な役割を果たした。中国共産党の政治宣伝を分析し、党の政策をいかに大衆に理解させることを解明することによって、中国共産党が築いた支配体制の根源を探る。一方で、中国社会も中国共産党の宣伝活動により、大幅に変化していた。政治宣伝の運用により、中国共産党の存在がいかに知識人や一般国民の日常生活まで浸透した。本研究は中国共産党の政治宣伝がいかに展開・受容されたかを明らかにする。それに伴う中国社会の変容の諸相を理解することによって、中国共産党の統治と中国社会の変容との間の相互作用を解明する。

【研究の内容・方法】（800字程度）

本研究は1949年中華人民共和国成立前後における中国史の連続性に注目し、1949年の境を乗り越え、中国近現代史の流れの中で中国共産党と中国社会の関連性から、中華人民共和国成立前後の社会変容を把握する。

そこで、本研究はまず日中戦争から国共紛争までの、共産党宣伝機構の変遷、人材養成および宣伝の政策決定制度を明らかにする。中国共産党が内戦期に政治宣伝を展開していったことが、中国共産党による革命の正当化に深く関わるのを解明する。本研究は都市部の政権交替期の共産党の宣伝機構の活動から着手し、共産党政権が当時国民の理想に迎合する政治宣伝政策と方針を採用したことを提示する。そして、建国後の政治運動を中心に、共産党政権の政治宣伝が都市と農村へ浸透し、言論統制システムの土台が構築され、中国共産党による党国体制の原形が示めされる。さらに、本研究は1954年憲法の制定前後の政治宣伝を考察することによって、共産党が法律上の正統性を宣伝の手段で構築したことを解明し、社会主義化のもとで中国共産党の権力が国家体制への浸透を示す。最後は共産党による新政権が政治宣伝を利用して国際社会への参加を図って、頻繁に対外宣伝を実行したが、冷戦の構造および中台関係により頓挫したことを説明する。

本研究はマルチアーカイブの研究方法で、まず、中国地方レベルの公文書館で保存されているアーカイブを整理し、中国共産党の政治宣伝が新政権の成立後都市部と農村部における多様な遂行実態を解明し、内戦中に共産党の政治宣伝政策と比較し、歴史的連続性を提示する。そして、中国共産党の文献集および指導部人物の日記・回想録を利用しつつ、アメリカ・香港および台湾の史料と参照しながら作成する。そのほか、中国共産党の支配の正当性にもっとも直接に関連する政治上の憲法作成と経済上社会主義改造に注目し、地方レベルの公文書とオーラル・ヒストリー記録を比較しながら、大衆生活の様態と社会運営の構造の変化における政治宣伝の重要性を明らかにする。また、中国共産党の対国外の発信としての政治宣伝とその結果は、日米英三国の資料を利用して分析する。

【結論・考察】（４００字程度）

中国共産党の政治宣伝の連続から戦後中国史を議論することにより、本研究で明らかにした点は以下 3 点である。まず、中国共産党が内戦期に政治宣伝を利用し、自ら国民党政権の転覆行為を正当化した。そして、新政権成立後に国民の信頼を得たことを国内外に示す政治宣伝は、人民共和国の正統性の主張と緊密な関係がある。そのなか、権力は政治宣伝によって中央から地方に浸透しつつ、新政権のガバナンスの一環として、政治宣伝は戦後中国における国家と社会の統合と深く関わる。また、戦後中国社会変容の過程と政治宣伝の政策決定、内容、手法およびそれによる結果と結びつくことにより、中国の伝統社会の基盤が破壊され、一般国民の生活にも影響を及ぼし、現在までその影響が続いている。そのほか、本研究の資料調査は中国各地方レベルの档案馆まで至って、いままで利用されなかった新史料を発見し、地方レベルから共産党と政府の政策執行の状況を明らかにする視野を提供する。また、現地調査で収集した個人レベルの歴史記録も、戦後中国史研究に新たな思考を与える。